

これまでの総合教育会議における議論の概要

教育委員会の発言	知事の発言
<p>1 高校再編に対する基本的な考え方</p> <p>(1) 基本となる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会も「主役は子ども達」「子どもファーストで考える」ことが基本と考えている。 ・高校については、学区という広域の中で子ども達を育てるという観点で取り組んでおり、地方創生の観点からも、これからも各学区において中学生諸君に幅広い選択肢を用意してあげることが重要だと考えている。 <p>(2) 地域活性化と高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは通学可能な広い範囲の中の多様な学校の中から、自分の進みたい高校を選んでおり、必ずしも地元固執していない。 ・大切なことは、これからも各学区において中学生に幅広い選択肢を用意してあげることだ。 <p>(3) 子ども達の選択肢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業予定者数の減少により、再編を行わなければ、今後、中学生に多様な選択肢を用意してあげることができなくなる。 ・このため、再編を進める必要があり、その対象を部活動、学習活動などに制約のある小規模校とせざるを得ない。 ・再編モデルで示しているように、教育委員会としては、3学級の学校を全てなくすとか、7学級や8学級の学校だけにするという考えはない。 ・基本的に、再編を行わない場合に見込まれる学校の姿より、幅広い学級規模の学校を複数校ずつ配置する姿を用意してあげたいと考えている。 ・なお、2校を再編する場合、4学区のうち、特に学校の数が少なくなる学区については、慎重に対応する必要があるのではないかと考えている。 	<p>1 高校再編に対する基本的な考え方</p> <p>(1) 基本となる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生については、いずれの論者も、実効性を上げるためには、自治体間の連携を強化すべきだと指摘している。 ・論者の、中核となる都市を中心として、周辺の都市とネットワークを形成していくことが大事であるという指摘は重要であり、国の省庁もこうした考えをベースにして様々な施策を提起している。 ・地方創生の観点からも高校再編を進めるべきという観点は大切である。地方創生は市町村単位ではなく、市町村を越えた広域で取り組むということが、地方創生論として今まで言われてきたことの中核であり、この点を念頭に置いて考えていかなければならない。 <p>(2) 地域活性化と高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも各学区において中学生に幅広い選択肢を用意することが必要であり、大切であるという点については同感である。 <p>(3) 子ども達の選択肢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択肢を広げることは良いことだし、必要なことだと思う。 ・高校再編については、現在、総合教育会議において検討・協議を進めているところであるが、その上で再編の基本方針が定めれば、次の段階として、再編の対象校や実施時期など、具体的な再編計画を策定していくことになるものと考えている。 ・その際には、各学区において、再編対象校を何校とするかについても、教育委員会から示された2つの姿も踏まえながら、慎重に検討していくことになるものと考えている。

これまでの総合教育会議における議論の概要

教育委員会の発言	知事の発言
<p>2 小規模校の評価</p> <ul style="list-style-type: none">・他県で小規模校が存続しているのは、中山間地が多いことを踏まえ、高校教育の機会を確保することが基本的な考え方とされているからではないか。・最寄りの高校への所要時間を見ると、1時間程度要する学校が多く、学校が廃止となった場合の生徒の負担を考慮して存続しているのではないかとと思われる。本県とは事情が異なるのではないか。・コンパクトな本県では、他県と同様の観点から小規模校を存続することはそぐわないのではないか。 <p>3 高校の配置</p> <ul style="list-style-type: none">・一部の市に高校を集中させることは、避けるべき。・高校生の通学可能範囲は広いので、高校を再編して、バランス良く多様な選択肢を用意すべき。 <p>4 前期再編の評価</p> <ul style="list-style-type: none">・「滑川高校のイメージが格段によくなり、生徒同士が切磋琢磨している」というご意見は、再編前後をよく知っている有識者のものであり、前期再編により教育効果が上がったとの評価の妥当性が裏付けられている。・前期再編については、産業界からも好評価を得ており、学校の活気や工業高校の充実が歓迎されている。 <p>5 職業科に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・「ものづくり県」である本県には、県内4地区に、ものづくりを支える工業科単独校が必要だと思ふ。・普通科に併設された工業科についても、求人倍率が高いことを踏まえれば、これからも存続させるべき。	<p>2 小規模校の評価</p> <ul style="list-style-type: none">・私も、委員の皆さんのご意見と同じ方向の意見である。・なお、本県にも地理的な制約のある学校はあり、「地理的な制約のある学校は、再編の対象としない」とされている報告書の提言については、尊重すべきものと考えている。 <p>3 高校の配置</p> <p>4 前期再編の評価</p> <p>5 職業科に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・本県は、日本海側屈指の工業県であることから、地域産業の担い手を育成することは重要。・工業科単独校を県内4地区に配置することはもとより、報告書の再編基準では、職業科単独校については、1学年4学級未満になっても再編の対象としないとされているが、こうした提言も尊重する必要があると思ふ。

これまでの総合教育会議における議論の概要

教育委員会の発言	知事の発言
<p>6 その他</p> <p>(1) 中高一貫校</p> <ul style="list-style-type: none">・近県等の小規模な県立高校で見られるような、連携型の中高一貫校は、広域で通学できる本県にはそぐわないと思う。・進学校としての中高一貫校については、地元の公立中学校の弱体化という懸念があり、慎重に考える必要がある。また、本県では、既に私学で取り組まれており、生徒の減少が著しい中で、あえて取り組む必要があるのか疑問である。 <p>(2) 再編の際に留意すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の方々の感情や意見を十分伺い、理解を得られるように丁寧に進めることは、とても大切なことだ。・跡地利用については、まずは地元市町村の意向を尊重する必要があるのではないか。 <p>7 隣接県からの越境入学</p> <ul style="list-style-type: none">・協定は、相互主義が前提になるものであるが、糸魚川市内の高校の学科は、いずれも新川学区内の高校にある。・泊高校のような普通科は、糸魚川市内にもあり、通学時間も多くの子どもにとって糸魚川市の方が短い。・教育委員会としては新潟県に対し、糸魚川市方面からの出願を可能とする協定締結を申し入れることは差し控えさせていただきたいと考えている。 <p>8 北海道立東川高校</p> <ul style="list-style-type: none">・北海道教育委員会が公表している資料で、旭川市内での生徒減に伴う旭川市内の高校の再編とされているので、東川高校の学級編制とは関係がないのではないか。	<p>6 その他</p> <p>(1) 中高一貫校</p> <ul style="list-style-type: none">・中高一貫校については、教育委員の皆さんからは慎重な意見が述べられており、ごもっともという感じがする。・いずれにしても、有識者の方々からご意見、ご提言をいただいたが、課題もあるので、引き続き、慎重に議論していく必要があるのではないかと思います。 <p>(2) 再編の際に留意すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none">・本県では、他の北陸の県と比べても、相当丁寧に議論を進めているのではないかと考えているが、引き続き、適切かつ丁寧に進めてまいりたいと考えている。・跡地利用については、一義的には、再編対象となる高校について、ある程度のご理解が得られた段階で、地元の市町村がご判断されることが基本だと考えているが、現在、再編対象校が決まっていない段階であり、県としての対応を申し上げる時期ではない。 <p>7 隣接県からの越境入学</p> <ul style="list-style-type: none">・要望のあった朝日町に教育委員会から丁寧に説明し、理解いただくよう努めてもらいたい。 <p>8 北海道立東川高校</p> <ul style="list-style-type: none">・要望のあった朝日町に教育委員会から丁寧に説明し、理解いただくよう努めてもらいたい。

これまでの総合教育会議における議論の概要

教育委員会の発言	知事の発言
<p>9 生徒を全国募集している公立高校</p> <ul style="list-style-type: none">・合格者数を公表している 36 校のうち、35 校で定員割れを起こしているが、本県では、定員割れをしている県立高校は基本的にはない。・各学校の欠員状況を見ると、島根県と同様に、中山間地域での高校教育の機会均等を図るため、全国募集を行っているのではないかと思う。・定員割れが基本的になく、コンパクトな本県では、他県と同様の観点から全国募集することはそぐわないのではないか。 <p>10 意見交換会での主な意見</p> <ul style="list-style-type: none">・基準上、再編の対象となる学校のある地域の方々からは、大変多くの存続要望をいただいております、地域の学校に対する強い思いを感じる。・「地元にある中学校から、地元の高校に行く選択肢をなくすべきではない」とのご意見は、心情的には理解できるが、この意見を尊重して再編を行わない場合、中学生に多様な選択肢を用意してあげることができなくなる。・中学生にとって高校が非常にありがたい存在という意見をいただいているが、小規模校に限られたことなのか検証する必要があるのではないか。・「現時点でも、部活動や友達の数の問題になっている」との意見や跡地利用について指摘されている意見については、広く知ってもらう必要がある。	<p>9 生徒を全国募集している公立高校</p> <ul style="list-style-type: none">・要望のあった朝日町に教育委員会から丁寧に説明し、理解いただくよう努めてもらいたい。 <p>10 意見交換会での主な意見</p> <ul style="list-style-type: none">・学区や地域によって賛否の状況は異なるが、いずれにしても、数多くの貴重なご意見をいただいたと受け止めている。・こうした意見交換は大切だと考えているので、教育委員会には引き続き、今回の議論の概要を各学区などで説明し、ご意見、ご要望を伺ってきてもらいたい。・本県の小規模校におけるメリットや各県立高校の地域の活性化に果たしている役割、生徒自ら考える力をつける教育と地方創生が一体となった取組み状況などについて調べた上で、報告してもらいたい。・事務局には、これまでの検討・協議の概要を、次回までにまとめてもらいたい。